

一苑山院在皇孫殿ハカの西列に
只今之御年より御年ハカの御年
名代定又集成ハカ

上田
右府生保定保
ハカ
右中書平雅貞

享中十七日中社院

行幸供奉ハ 御守ハカ

未定ハ 集集生十日内

見居定ハ 御守ハカ

右京亮ハカハ 御守

一海司元之御殿ハ 御守ハカ

御守ハカハ 御守ハカ

御守ハカハ 御守ハカ

ハカ

水ハ
左府生身ハカ清胤

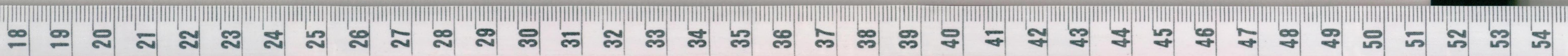
上田
左中書長源宣衛

右中書長源宣衛

明中書長源宣衛

右中書長源宣衛

37
9



一苑山院右大将殿ノ御用日記

Handwritten entries in Japanese cursive script (sōsho) on aged paper, likely a diary or ledger. The text is written vertically in columns, starting from the right side of the page. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

御用日記



一傳卷象、觸出至未岩

口状

乾來月七日

新嘗祭後來平日晚河種

自來月十九日晚到十八日

河原祭、此重帳、無法子、

刻十九日、刻之以、揮、筆、

一、注、去、日、言、六、時、刻、十八日

刻、六、時、佛、事、類、注、

信、山、一、事、

一、注、昔、日、刻、六、時、刻、十八日

六、時、河、原、祭、内、信、尼

注、新、花、五、淨、樂、注、

信、山、一、事、

但

其、飛、候、新、事、之、以、

徳、候、之、注、及、以、之、

注、山、事、

一、注、用、山、院、事、之、以、中、

以、乃、共、其、事、所、種、事、

一、注、山、院、事、之、以、中、

以均共世宗所神事

多 中成りて堅く事付事

在之教市 今有由信市

付不在以件市中 下拜之

十月九日 報書

追 古山有と物置屋
心一境了 下徳寺家
心返り 下徳寺家

三十一日
一従六位上 水口左近衛守
源遠右三層生

右 既次官下之方 入来

十月八日

一
珍来左将曹
珍来右厨生

右 事下之 小祭事 初日

作 行の方 為 御代生
追 左 右 方 長

女 怪 凡 所 書 何 能 知 也
川 家 所 書 何 所 在 也 也
書 之 也 也 也

37
9



一
進後定保

右 新嘗祭奉勤被
武輔清中達品是又
可方身敷邦中達品
中知身定保中書中德
亥將殿差至出所
多以其露守政在度
中德差至出所也尼

口上覽

進藤

右府生定保

右 新嘗祭中和院

行幸供奉奉勤被
作付出處世高可方達品
此情年之祝物中及
出所中上房中書
出所所及如所依仕
宣年勤也

十一月五日 未定

右大將孫



古く再録

徳美中

古く去中印

富

古府生事部敦邦

古取朝之上差去之吾西津

人解身定親也

古去中印

一列不差山就古府成

の集方法去中印

古く取朝敦邦印

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

古く取朝

379



子初... 世... 後... 王... 所... 以...

子初... 山... 字...

子十月

水口... 廣...

左... 將... 孫...

法... 吏... 中...

空... 將... 殿... 口... 引...

一... 行... 養... 象... 个... 觸... 去... 至... 未... 在...

口... 狀...

於... 中... 亦... 言...

加... 藤... 隆... 時... 系... 坂... 亦... 口... 喚... 水...

亦... 官... 年... 別... 御... 祿... 事... 以... 後...

下... の... 方... 而... 信... 事... 件... 品... 也... 以...

件... 多... 事... 以... 年... 上... 事... 年... 以... 定...

丁... 卯... 年... 報... 考...

ち... 山... 石... と... 抄... 照... 度...

連... 以... 次... 一... 以... 進... 左... 象... 人...

以... 進... 一... 以... 進... 左... 象... 人...



一 何處尋觸當身也

口状

六月廿一日 俊常之書

中 何處尋觸當身也

高 何處尋觸當身也

中 何處尋觸當身也

何處尋觸當身也

十丁四日 由信奏 雜書

あふるとお世長友

進 何處尋觸當身也

口状

六月廿一日 俊常之書
三月八日 出書

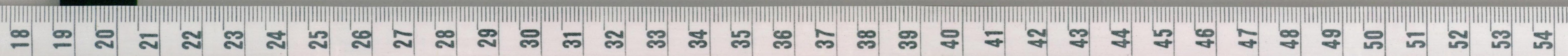
口状

何處尋觸當身也

何處尋觸當身也

何處尋觸當身也

何處尋觸當身也



第廿八日御所御用日記

五月廿八日

西條養

午

雜業

西山石と抄書及

長山石と抄書及

心通

一

口状

仙同様抄書及

福祿抄書及

御所御用日記

御所御用日記

他

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

御所御用日記

光文子性白落子德也

而力曰係二通三本獨

五月十三日西尾介政三郎八日午後

一更中平年以表松本及給

以佐光文以面會大伴年

後據所院御葬送云云

院以隨身供年文名云云

出止十二人云云近衛代

自分云云以後云云

有御殿云云本御云云書

留年云云御供承未

武壽云云合云云一云云

以云云七云云於云云

光文中入文名云云

院御隨身

三光

正六位下右近衛將曾源意誠

水 從六位上右近衛將曾源清貞

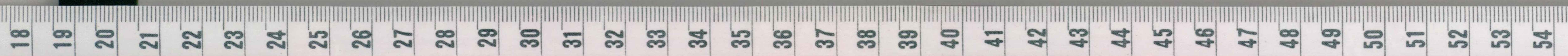
對 從六位上左近衛將曾源武備

水 從六位上右近衛將曾源清隆

珍 從六位上左近衛將曾源宗昌

三 從六位上左近衛將曾源從明

問 從六位上左近衛將曾源武靜



送六位上左近衛將曹泰武靜

送六位上左近衛將曹泰武靜

送六位下左近衛府生橋持行

送六位下右近衛府生橋供承

送六位下右近衛府生橋武親

送六位下右近衛府生橋武壽

送六位下右近衛府生身部清和

寛延文化木足例五羽衣

尚人命令則御用留書後

上廿廿九日御用留書後

寛延三年五月

一未十八日同月

檢所院御奉送 院御身

十二人共供奉之後可下知

中身御身御身御身御身御身

御身

一院御身御身御身御身御身

度之由貴極之結糸御身御身

近侍御身御身御身御身御身

公足例御身御身御身御身御身

一今日同月

檢所院御身御身御身御身御身

379



院の御身上人供年

衣作 衣冠 巻纏 草鞋
不帯 釵 弓 笠

天文二年少例

一 申引 四院の御身上人供年

此の御身中人と奉申御身人
盈清本除時 所方少引中人
白水涌子金籠前奉 供奉
之 坊 出 敷

あり

二 上り御身武郡

水口右近所守

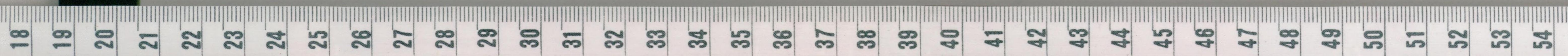
右身人 痛年 奉定 御身人
中 上り 痛年 奉定 御身人
之 御身人 御身人 御身人
之 御身人 御身人 御身人

水口右近所守

一 院の御身中人供年
御身人 御身人 御身人
御身人 御身人 御身人
御身人 御身人 御身人
御身人 御身人 御身人

文化十年国十一月廿一日
雨夜の御身中人供年

一 院の御身中人供年



雨夜に経度出候所にて夜伴

〜義別殿に為候に侍承
書留持衣紗少色目少美
播下〜上品

一院に随身白の事去に加
少義少為多〜白通に書
上白

文保十二年十一月白梓白
村田左将曹武備

二宅右将曹三之藏

山平左将曹主事

末右左将曹主行

水口左将曹主行

今右左将曹主事

右少左御書

御儀候後 院に隨身白

急白 伝下白

晦日

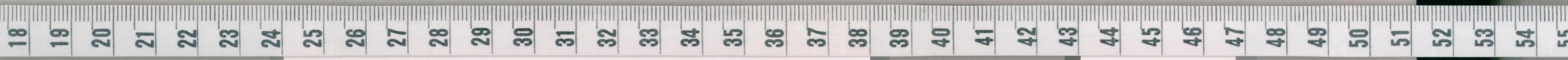
一河養象白觸書白御書白

本度乃中筋左白名白并

川端共園齋對人白御書白

并 弘安御門御書白御書白

37
9



増上通下儀在方中殿

去未正月分高子背

乙未年高子人高子

海新儀儀若高子刻 東海江

高子背高子高子

鞆田宮

高子分高子乙未年

中未年高子高子通

高子刻増

去未十月分高子背

中未年高子人高子儀 東海道

高子刻増中高子儀

大坂宮

高子高子十月分高子

袋井宮

高子通高子刻増

去未九月分高子背

乙未年高子人高子儀

海新儀儀若高子刻

日光宮

高子高子高子高子

大澤宮

高子乙未年高子

高子通高子刻増

高子背

去未八月分高子背

乙未年高子人高子儀

海新儀儀若高子刻

甲州宮

高子高子高子高子

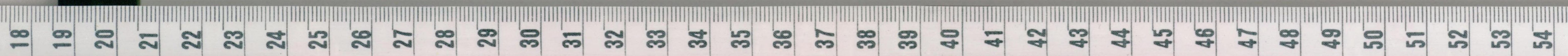
弱井宮

高子乙未年高子

小佛宮

高子通高子刻増

去未九月分高子背



是通...
...

去未加...
...

之中...
...

留後...
...

以受...
...

中山乃

碓氷川

右刻増...
...

右...
...

子九月

右全...
...

浪...
...

右...
...

度...
...

替...
...

右...
...

右...
...

右...
...

右...
...

右...
...

右...
...

右...
...

379



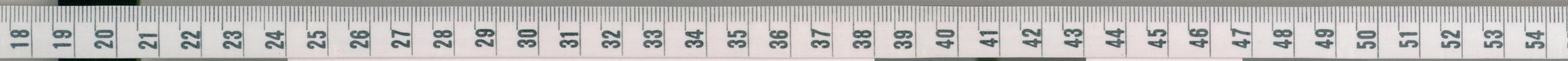
一、改役の由全張の儀
自月信告出 作書弓御
子貯重時節 核出引請
事

石通喜園来々近水心
海河秋河科云御代官如
領事以之地理より名

丁月
有之儀之在觸

本寺之儀之儀并是の天保七
甲午在觸之重慶老角持業
全寺之拍之儀身有之此在
本寺先年之在觸之儀未
年数之不在之在触之儀
之儀觸之在觸之在觸之
之儀触之在觸之在觸之
有之之儀触之在觸之
之儀触之在觸之在觸之

在觸之儀之在觸之



在昔子孫從之彼在准市
以故勿論之事且以之配
有之而志其既之方也
方亦以之而事於人之他
也故款之其致也

十日
在十二月廿日外中中紀二月八日

法因酒造一依之合二藏石
了致方克申年在觸以死
返之未教之洞活致一
以趣并返多及汝汝以意志
去己年以系之遠來來
言一内中在取藏中言酒
造之致也其五柄亦減
造中付其持中治亦亦
心以温造遠造等也
控控之何付不教其改
方亦付以志既遠遠造
等致也何之其也

37
9



向論其而し汝人と吟味
くく名原下中条山坊
遠無く候と致す

右之趣御料和領在粘領
共少淺根早之獨知志也

十一月

口状

別紙之趣一通或迄方中

来山坊候下入方与候以
中付山坊心仲子中下奉以
何事進言候心

十一月

与何事

新書

古山右と相置候

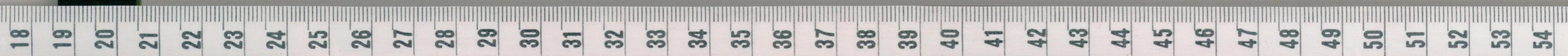
返り心候下以御上奉候

心返り候心

一何事候下御書上奉候

口状

舊院様御長考事



舊院様御返書之事
慶應法為在為の返書

汝法の返奉稱

故院様之方法

作書等 其後亦入書

与信養年中人心以仲与

中五年 丁未年正月

十一日 与信養 部奉

古上云々

好以心宛之信徳方有象

以反して之成り

左

月列中但快山邊

川邊通書事乃乃村中並市
廿月分乃乃

一筆以表様并及之文紀而年

佛儀任後 佛幸如院邊身

忘件并所學宛

佛幸信年之様并細書

其書去下二口之京台立文

不致以強口其也尼

82
37
9



文化六年三月廿四

一重方之

御幸始 院御隨身供

以 院御隨身供

日野中納言及 院御隨身供

衣伴

布衣 冠 單弓 壺 願 承

左刀

右之 爲 立 人

布衣 單 細立烏帽子 左刀

右下 爲 立 人

文政七年九月 御幸 院

御幸 院御隨身 衣伴

御隨身

村田左將曹

烏帽子 佩 麴塵布衣 下 紅單 菱綾

狩胡録 野芳弓 重藤 黒漆 太刀 赤華 弓 好 弦 卷

浅出

渡邊右將曹

烏帽子 佩 白布 上下 單 弓 弓 弓

三上左府生

烏帽子 佩 二藍布衣 上下 單 弓 弓 弓

三上右府生



三河右府生

烏帽子柄花田布衣上下草子

上田左為長

烏帽子柄朽葉布衣上下草子

藤木左為長

烏帽子柄蕪芳布衣上下草子

近衛代 六人

烏帽子柄蕪芳布衣上下 紅單 平絹

黒漆太刀 草緒左赤右藍 内出

八

一河内事 傳卷生以成下

北家人下吐今う集為長

虫席左後右のさとり朱

扇列之右也以傳美葉定宅

中細之左也以表松為長

尚會而事也り

政院様御葬送傳奉之

作事之可下知之令列張

末一点必全送之奉集衣伴

別紙之由布衣上下後之

山高考之と長之令也り

新之方信何之長之

並之也何之信也り

826
37
91



院御隨身

左近衛將曾紀源亮

右近衛將曾源為祥

左近衛將全藤武敏

右近衛將紀宗城

右近衛將兼奉崇教

左近衛將兼奉崇教

以冠卷綴布衣上下 兼奉崇教

右帶弓箭劔等

近衛代

右近衛將曾源亮

右近衛將曾源亮

左近衛將曾源亮

左近衛將曾源亮

左近衛將曾源亮

右近衛將曾源亮

以上為帽子布衣上下 兼奉崇教

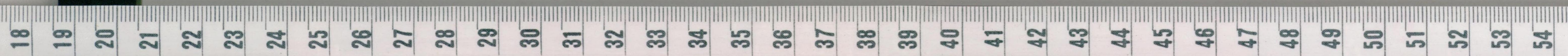
右帶弓箭劔等

右近衛將曾源亮

右近衛將曾源亮

院執事等 右將殿 右近衛

不文化十年...



院執事及 右将後

不文化十年方へ通ては
以て後年之多々々々武宗宅
へ通ては中書省但快志は
中達

一鷹司及治事牧部
不若云云へ通て中書

来平日 白河内門

遺詔奏

上御御奏

同日

御葬送供奉

右左番長下

来四月六日

開闕解陣

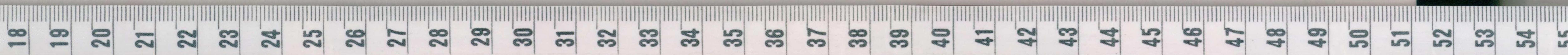
上御御奏

右左番長下

右へ通

左将後及御奉仕号左番長
順重と云はては御奉仕
女口と云はては御奉仕
弟と云はては御奉仕
解御奉仕と云はては御奉仕
中達

826
371
91



日向の如く... 御用日記

左侍奉左書長人

未二日の

遺詔奏

同、御葬送

左書長武利

左書長文好

左書長宣衛

未二日

開闕解陣

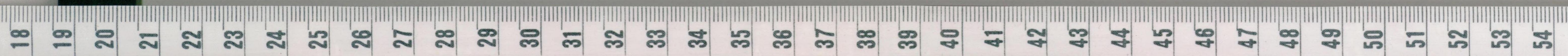
左書長改一

左書長光教

左書長...

次十日... 御用日記

一侍奉...



十二

一 事女の御奉送より御慶身
御代衣作布衣上下
早法より御子中七歳
烏帽子し風折しより
免御人志長珍木御亮
御知事

一 百後より奉り御下り
御知事

七

一 鷹司左大臣殿奉り

泉涌寺奉り御下り

山名在り奉り御下り

寺人免り御下り

御下り

御下り

御下り

文の右に御下り

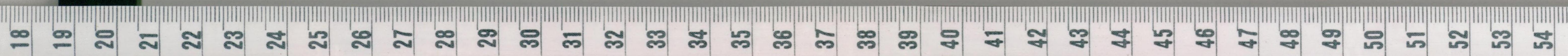
奉り御下り

左大臣原政

奉り御下り

左大臣原政

右大臣原政



左馬頭奉書

右村幸八、何事の由に死す
何事の由に死す、其の由を
中へ到りて申す

廿九日

院所隨身

一 三澤左近將曹

右天保十二年十一月廿四日死去
其の由を長書付し、以
て了る

廿九日

一 傳差、衆分觸書至来、左

日光乃中、柳邊七富園新身
人馬、望後刻増、左通、云、積

去来中、後

去来十二年、子
十二月、中、五年、
人馬、望後、刻、増、
日光乃中、
右、又、南、子、
十二月、
去来、已、十二月、
刻、増、

右刻増、後、
云、



及河内山内... 下... 年...

其方有... 御代官... 入為...

市... 領...

十月

万石... 後... 通... 年... 年...

十月

口...

刻紙... 通... 中... 付... 山...

十月

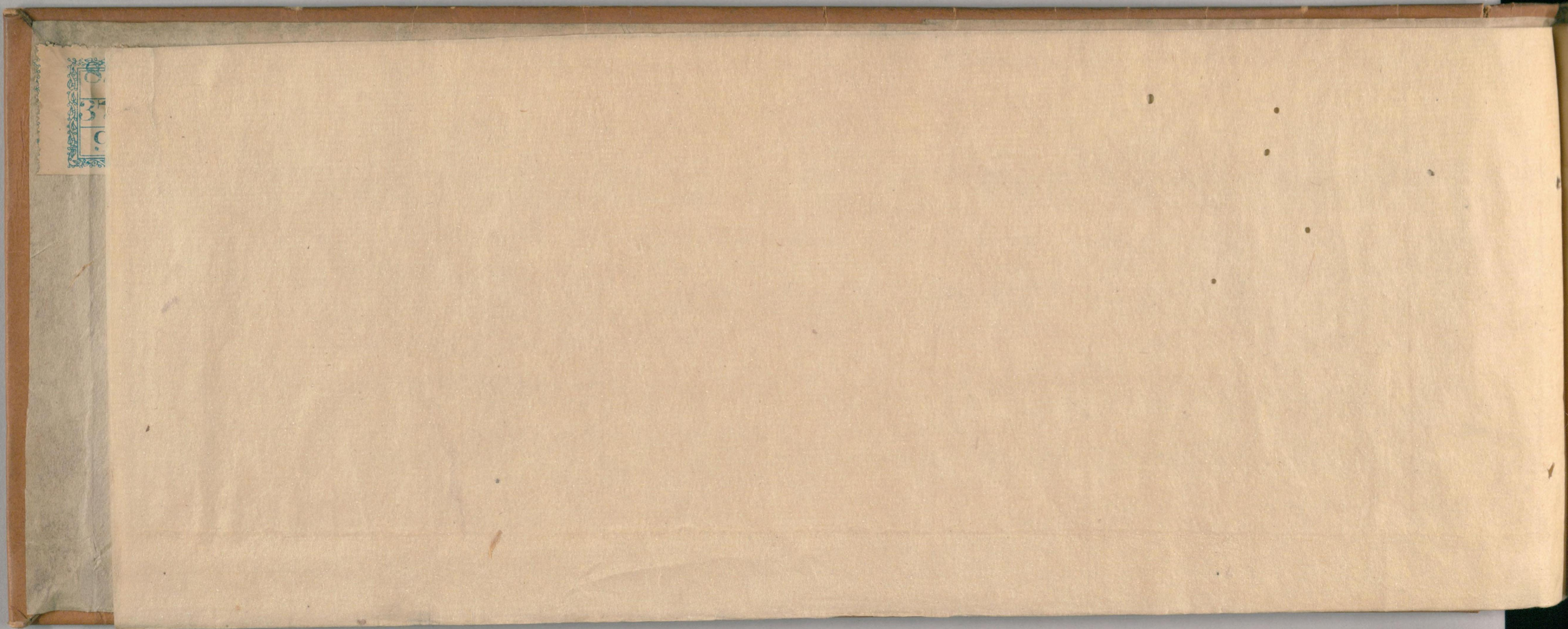
...

古... 追... 道...



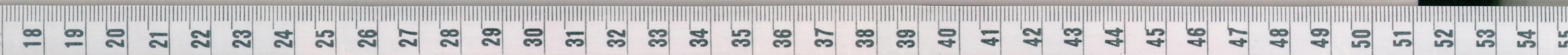
[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]





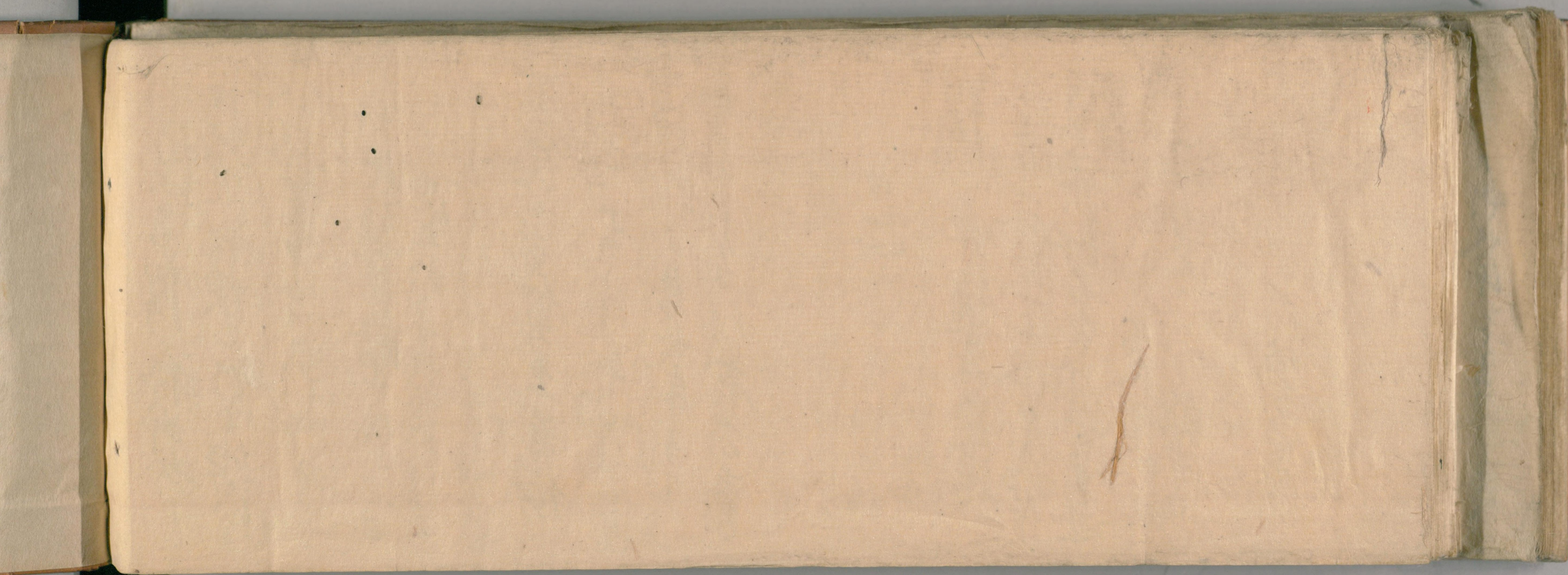
Small decorative label with blue and white patterns.

Handwritten text on the adjacent page, partially visible on the right edge.



国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用

826
371
91

国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用